

木幡山 こはたやま

〔六地蔵より北なり。今の仏国寺の辺をいふ、惣じて木幡は庄号にして、北は深草を限り、南は岡の屋五箇庄を限る、今の六地蔵の町、古の木幡里なり。故人和歌にかち人を詠ことは、此里にむかし馬かす人多くありしより、恋歌に詠て、思ふ人に急ぎ逢ひたく、かへつて馬をもちからずかちにてゆく心なり〕

新後拾

木幡山君がゆき、は馴にしをかちより送る旅ぞ悲しき

高階宗成